

令和7(2025)年 2月4日(火) 発行

赤磐市桜が丘東 6-6-704

さくらが丘保育園

『こどもの遊びを守りましょう』②

乳幼児期のこどもの仕事は「あそぶこと」だと私は思っています。法人の設立から40年余りがたちます。設立当初より当法人は「あそび」を大切にしています。

過去の『保育園のしおり』や『保育過程』に載せていた文章で、私が好きな文章があります。

こども時代にしかできないこと。

それは時間を忘れて遊ぶこと。

新しい発見と出会いに胸をわくわくさせること。

その子の人生を豊かにするために、今を大切に、充実したこどもらしい生活をおくれる「こどもの砦」に保育園をします。

こどもが遊びに没頭しているとき、その時間をできる限り保障していきたいと思っています。ただ、集団生活である保育園という場所で一人ひとりの時間を保障するには限度がありますが、「折り合いをつける」ということを大切にしながら「あそびほうける時間」を意識した保育を展開したいと思っています。

花房 由美

祝 40周年



あなたのそばに OKK さくらが丘保育園

※OKK…岡山こども協会 (OkayamaKodomoKyoukai)



大きい紙で折るぞ♪

音楽に耳を澄まして！
イスとりゲーム



すずらんより



コンコンッ！ 咳のかぜ、引いていませんか？

寒さが深まり、あちこちから咳が聞こえてきます。乾燥が原因の咳もありますが、ウイルス性のものは飛沫感染によって広がっていきます。マスクの装着や、腕で口を押えるなどの咳エチケットを行いましょう。

☆おうちで出来る事☆



洗濯物を干したり、加湿器をつけたりして、湿度を調節し、喉を潤しましょう。



咳がひどく寝付けな
い時は、背中の下に枕や
クッション等を置いて
上半身を高くしましょ
う。
息が楽になりますよ。



麦茶や白湯な
ど、刺激のない飲
み物で水分補給
をこまめに行い
ましょう。

私の好きな絵本

おじいさんが取ったかごいっぱいきのこの中に入りたい毒キノコのベニテングタケ。かごの中には他の毒キノコもいて…。きのこ同士のやりとりを描いています。毒キノコの見分け方も作中に出てくる絵本で、その見分け方がこどもながらに面白かったのだと思います。家族の中でも話題に出る絵本はこの本です。

梅本 果歩



『クラスで今！ブームのあそび① つき組』



園庭に出ると、かくれんぼ鬼ごっこをよくしています。最初は保育者が鬼をしていたのですが、「鬼やりたい！」と、今ではこどもたちだけで鬼の役、隠れて逃げる役に分かれて行っています。見つかりにくい場所を探して隠れたり、「どこかなあ？」と言いながら友だちを探したり、繰り返し楽しんでいきます。鬼が近くに来ているのか気になり、つい覗いて見てしまい、鬼に見つかってしまった時のこどもたちの反応もとても面白いです。

『クラスで今！ブームのあそび② ゆき組』

園庭に出ると倉庫に向かいまっしぐら。お目当ては三輪車です。ゆき組っ子たちの人気はペダルのない三輪車ですが、ペダルがあるものにも乗っています。三輪車にまたがると、嬉しそうに広い場所へ出かけたり、友だちと連なって走らせたりしています。まだ、ペダルを踏んで漕ぐことはできませんが、自分の足でしっかり地面を蹴り、力強く進めるようになってきています。



～集団あそび紹介～

『隠れオニ』



- ①じゃんけんでオニを1人決めます
- ②オニが数を数えている間に、こどもたちは隠れます。
- ③オニは数を数え終わったら、「もういいかい」と声をかけます。「もういいよ」と返事があったら、こどもたちを探しに行きタッチします。
- ④隠れてる子は、オニに見つかってもタッチされるまでは捕まったことにはならず、逃げるができます。逃げ切ったら、また隠れてもOKです。
- ⑤オニにタッチされたら、役割を交代して繰り返し遊びます。





花は咲く



さくらが丘保育園の40周年記念イベントがあり、来園して下さる方々へのプレゼントとして、開園の時に植えた桜の木の枝に、毛糸を巻いてストラップを作りました。

作り方を伝えると黙々と作り始め、枝ぶりや毛糸の色を選んだり、毛糸の巻き具合のバランスを考えたりする姿がありました。「この枝は太いね、この色で巻こうかな」「ボンドをしっかりとつけたらうまく巻けるよ」など作りながらいろいろな工夫が生まれ、それが自然発生的にクラス全体に広がっていきました。完成したストラップをみつめるこどもの表情は、どの子どもとても満足そうでした。

そら組 土屋 勇気



室内では、積み木を並べてドミノ倒しをして遊んでいます。始めは、全部のドミノを次々に倒すという目標ではなく、単純にドミノを並べていく工程を楽しんでいたようで、途中で倒れない箇所が出ていました。くり返し楽しんでいくうちに、上手く倒れるように間隔を考えたり、枝分かれさせたり、友だちと協力したりと、考えながら並べるようになっていきます。また、完成したものを全体的に見て、“ここは倒れなさそうだ”と感じたところを、微調整している姿を見た時は驚きました。数人で協力して作っている途中、一人の子が倒してしまい、みんなで「あっ！」となることもありますが、「もう!」「なんで?」と怒ることなく、協力して並べ直している場面を見ると、みんなでいいものを作ろうとしているのかなと、嬉しく感じました。

ほし組 下山 静菜



いちばんぼし





気の合う友だちを誘い、砂場の道具を使ってごっこあそびがはじまりました。「ちょっとお仕事行ってくるから」とお母さん。「私はお買い物行ってくる」と2人目のお母さん。「今日はパーティーがあるから」とメイクをする振りをしながら言うお姉ちゃん。「にゃんにゃん」とネコ。それぞれ自分のやりたい役になりきって遊んでいます。こっそりよく聞いてみると、会話は成立しているようで、実はしていません。お母さん役が何人もいたり、それぞれ少しずつ設定が違ったり、ついツッコんでしまいたくなる事も。ですが、こどもたちの表情を見るととても楽しそうで、こどもたちならではの世界観があるのだろうなあと感じます。それと共に、このごっこあそびから友だちのことを気に掛ける心が芽生えたり、想像力の広がりにつながったりするのもかもしれない、今のこどもたちの世界観を壊してはいけないとも強く感じます。これからもこどもたちが楽しく遊べる環境を整え、見守っていきたいです。

つき組 竹内 和羅



雪が園庭一面に広がった日、そら組・ほし組・つき組があそんでいる姿を窓からじっと見ていました。

「よし！雪であそぼう」と保育者が伝えると、待ってましたと言わんばかりに、いつも以上の速さで靴下や上着、帽子を身に着け、いざ外へ。

雪を「みてみて！」とすぐいあげたり、ぎゅーっとにぎって小さくしたり、落として壊れるのを繰り返して楽しんだりしました。また、保育者が雪玉を作ったものもち「まて～」と友だちや保育者を追いかけはじめ、ミニ雪合戦になりました。

「つめた～い」「いた～い」とみんな手が真っ赤になりながらも笑顔いっぱい部屋にはいりました。

にじ組 大森 航輝



にじのかけはし



ある日の砂場あそび、「お山作ろうか！」という保育者の誘い掛けに数人のこどもたちが乗ってきました。山に砂を乗せる子やまだ未完成の山に登りたがる子、山の土を固める子など、思い思いに山作りを遂行していきます。その姿を、遠くから見つめる子が一人。「一緒にしたいのかな？声を掛けようかな？」と保育者が思案していると、山作りに没頭していた子が「おいで～」とその子に声を掛けたのです。保育者の声掛けなく、自分から友だちを誘う姿をその時初めて見ました。

何でも先回りして、大人が働きかけることは簡単ですが、そうするとこどもからの発信やこども同士の関わりを潰してしまうのだな、と改めて感じました。

あそびの投げかけや、安全に遊べる環境作りは行いながらも、「誰とどう遊ぶか」はこどもたちが自分で選択できるように、見守っていきたいと思います。

ゆき組 土屋裕香

Fresh snow



紙皿に拾ったどんぐりや木の実と水を入れこどもたちと一緒に氷づくりの準備をし、テラスに置きました。次の日、できた氷を見せると、じっと見つめるこどもたち。保育者が触って見せると、こどもたちも手を伸ばし、氷を触り「わーっ！」と驚いていました。「氷、冷たいね」と言うと「つめたーい」と同じように言い、保育者が氷を持ち上げ太陽に照らされる氷を見せ「見てーキラキラよ」と見せると、周りの子も「キラキラ」と嬉しそうに言っていました。「キラキラ」と言う言葉が言えたので驚きました。

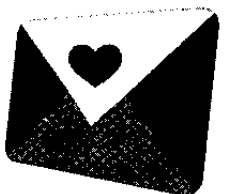
こどもたちにとって、初めてみる物は不思議がいっぱいですが、触ることで感触を直接感じ、それを周りの大人が言葉に置き換えることで、言葉と感覚意味がつながっていくのだなと改めて感じました。

はな組 玉置七彩



全私保連保育運動
新しい時代は
子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

その2 子ども「遊び」を守りましよう

赤ちゃんの行動に、自分の手やものを口に入れる行為があります。それは、赤ちゃんにとって遊びの一つと考えられています。その「遊び」は、赤ちゃんが生きていくうえでたくさん感覚を学ぶ大切な行為となります。

「遊び」という行為は、年齢を重ねるごとに一人遊びから集団の遊びへ変化していきます。例えば、雪が降った時に、雪を一生懸命に手に載せようとすると手に触れた瞬間に溶けていくでしょう。不思議に感じて、何度も雪を手に乗せることを繰り返していくと楽しくなる。その後、まわりの友だちにも不思議さの共感を求めることで「遊び」が発展していきます。

このように乳幼児期に経験したすべての「遊び」は、「学びの芽ばえ」から「自覚的な学び」へとつながる大切なものなのです。

現在の私たち大人は、テレビやポータブル機器で子どもたちに動画などを観せることで、子どもたちの成長よりも、おとなしくなり手がか

からなくなることを優先しがちになっているように感じます。もちろん子どもたちに動画等を観せることで新しい喜びを感じ、そこで学ぶことも多くあると思います。しかし、乳幼児期は五感が極めて発達する時期です。動き回って実



際にものに触れたり、匂いを嗅いだり、音を聴いたりすることを優先して、大切にしてほしいと思います。

遊んで服を汚してしまったり、思う通りにならずに泣いてしまったり、少しケガをしたりと子育て中は大変なことの連続だと思えます。けれども、子どもたちの「やってみたい」を大切にすることが、子どもたちの将来の生きていく力に必ずつながります。

おままごとも、電車遊びも、子ども自身の意思で好きな遊びを創作し没頭する。それは、大人が必要以上に関与や干渉するべきことではなく、ただ遊びの機会を保障することが大事なのです。何をするのか、誰とどうやって遊ぶのかは、子ども自身が考えます。「遊び」の中では子どもたちの道徳心さえも育っていくものだと思います。

今も、これから先も、子どもたちに実際に触れるものや見えるもの、子どもたちが感じるすべてのものが、子どもたちの未来をつくります。そのために私たちは、子どもの「遊び」を守らなければならないし、守ることが大切だと思っております。